

財務報告研究におけるテキスト分析

矢澤 憲一
金 鉉 玉
伊 藤 健 顕

目 次

1. 財務報告研究をめぐる新たな潮流
2. 財務報告研究におけるテキスト分析
3. 有価証券報告書の記述情報は中長期業績と関係するのか
4. おわりに—テキスト分析が切り拓く未来—

会計情報の価値関連性の低下、非財務情報の爆発的な拡大、そしてテキスト解析技術の発展によって財務報告研究におけるテキスト分析が増加してきた。本稿では、これまでのテキスト分析を概観するとともに、テキストマイニング技術を用いて、有価証券報告書におけるMD&A、事業等のリスク、そして対処すべき課題のトーン／可読性と中長期的な将来業績との関係を分析する。



矢澤 憲一 (やざわ けんいち)

青山学院大学経営学部教授。一橋大学大学院商学研究科博士課程修了、博士(商学)。2005年4月青山学院大学経営学部専任講師、2012年9月から2013年8月までThe University of New South Wales (オーストラリア) 客員教授、2017年4月より現職。主な業績として、“The relationship between audit team composition, audit fees and quality” (*Auditing: A Journal of Practice and Theory* 36(3)、2017年、S. Hossain and G. S. Monroeと共著) などがある。



金 鉉玉 (きむ ひょんおく)

東京経済大学経営学部教授。一橋大学大学院商学研究科博士課程修了、博士(商学)。2009年4月東京経済大学経営学部専任講師、2014年4月から2016年3月までHaas School of Business at UC Berkeley (米国) 訪問学者、2018年4月より現職。主な業績として、“Effects of Audit Partners on Clients’ Business Risk Disclosure” (*Accounting and Business Research* 47、2017年、Hironori Fukukawaと共著) などがある。



伊藤 健顕 (いとう たけあき)

甲南大学マネジメント創造学部准教授。一橋大学大学院商学研究科博士課程修了、博士(商学)。2013年4月甲南大学マネジメント創造学部講師、2018年4月より現職。研究領域はテキストマイニングによる分析を活用した企業ディスクロージャーに関する実証研究。主な業績として、「トピックモデルを用いたMD&A情報の分析」(『ディスクロージャー&IR』16、2021年) などがある。